千葉・市原（いちはら）条里制遺跡

1　所在地　千葉県市原市市原

2　調査期間　一九九〇年度調査　一九九〇年（平2）四月～一九九一年三月

3　発掘機関　㈶千葉県文化財センター

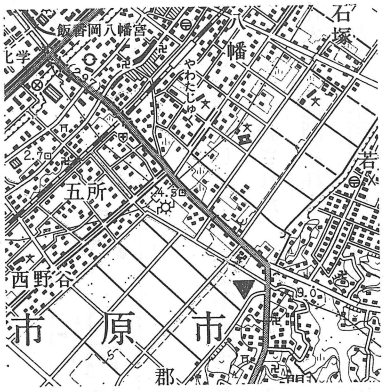
4　調査担当者　大谷弘幸

5　遺跡の種類　水田跡・古代道路跡

6　遺跡の年代　古代・中世・近世

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

市原条里制遺跡は、市原市北西部に広がる標高約五mの沖積平野に位置し、南約一・五kmの台地上には上総国分寺・国分尼寺がある。本遺跡周辺には、一九六〇年代の圃場整備以前まで、明瞭な条里的土地区画と、それに伴う「一ノ坪」「二ノ坪」などの小字名が残っており、上総国府所在地問題と関連して古くから注目されていた。



調査は東関東自動車道の建設に伴って行なわれ、一九八八年には試掘調査が、一九八八年～一九八九年には確認調査が実施され、現在本調査が進められている。

これまでの調査の結果、条里的土地区画の水田跡を古代・中世前半・中世後半・近世の四面で確認することができ、いずれの水田区画も前段階の畦畔と位置を同じくして造られていたことが明らかとなった。このほか、条里的土地区画に先行して造られた、幅約五mで両側に約二mの側溝を有する古道跡が検出されるなど、上総中心地域での土地利用、交通網の一端を知る有力な手がかりを得ることができた。

遺物の量も多く、須恵器・土師器・灰釉陶器・緑釉陶器・青磁・中世陶器などのほか、鉄鏃・銅銭も出土している。木製品の遺存状態も良好で、曲物・下駄・大足・刀子形・漆器皿などが見られる。

木簡は、古代の水田畦畔跡（幅約一mで南側に水路を伴う）の南側より一点出土した。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「〈□□米五斗」　182×23×7　032

木簡の形態は、長方形の板目材の上部に両側から切り込みを入れたものである。文字は片面のみ書かれていたが、墨痕は薄く赤外線

テレビで観察した結果五文字確認でき、そのうち下部の「米五斗」の文字が判読された。文字内容からこの木簡は、米の移動に伴う付札木簡と推測される。

なお、木簡釈文の作成およびその内容については、国立歴史民俗博物館平川南氏から多大のご教示を得た。

9　関係文献

大谷弘幸・笹生　衛「関東地方の条里」（『考古学ジャーナル』三一〇　一九八九年）

（大谷弘幸）